

＜事務職・技術職＞

Q. 県庁や国家公務員ではなく、市役所を選択した理由はなんですか？

A. 国や県の仕事に比べると、市役所は市民の方と直に接する機会が多いと考え、市役所で仕事をしてみたいと思いました。

Q. 民間企業からの転職と聞きましたが、公務員との一番の違いはありますか？

A. 民間企業は利潤（利益）を獲得しなくては存続できないため、従業員は利潤の追求に一丸となって取り組みます。一方の公務員は利潤を重視しないわけではない（経費の無駄遣いの削減等、賢く使うことは当然）ですが、直接的に利潤を生み出すものでなくても、住民に必要なサービスがあれば、公共サービスとして提供することが大きな違いだと思います。ただ、どちらの存在も、社会が成長していくためには不可欠な存在であるので、優劣の問題ではありません。

Q. 津市を志望した理由はなんですか？

A. （職員A）

平成23年の東日本大震災を契機に、いざという時に頼りになる存在になりたいと思うようになり、地元である津市に一番近くで貢献できる仕事は何かと考えたときに、津市役所しかないと思いました。

A. （職員B）

きっかけは地元で慣れ親しんだまちに貢献したいと思ったからです。実際どんな仕事内容なのか、どんな雰囲気なのかは分からないので、説明会やインターンシップに積極的に参加して、自分自身とその仕事が合っているか、したい仕事があるかを探していけばいいと思います。

Q. 県庁所在地だからこそその仕事はありますか？

A. 津市は人口30万人未満ですので、県庁所在地ですが一般の市町村と大きく変わりません。ただ、県庁所在地であるために注目度は高く、「津市では〇〇ということについてどういう考えですか。」と他自治体から聞かれることがあり、そこは県都ならではの部分なのかなと思います。

Q.採用試験において、出身地によって不利なことはありますか？

A. ありません。津市で働きたいと思う気持ちや動機があれば全く問題ないと思います。

Q.仕事のやりがいをどういった時に感じますか？

A.（職員A）

市民の方から感謝の言葉をいただいたときは、やりがいを感じ、モチベーションの向上に繋がっています。

A.（職員B）

私自身が担当している業務は、結果が目に見えやすい仕事であるためやりがいは感じやすいです。交通安全教室で子どもたちの交通安全に対する意識が変わったり、放置自転車の数が減ったり、目的が達成させたときはやりがいを感じます。

Q.仕事をするうえで大切にしていることはありますか？

A. 人事異動による配属等の自分でコントロールできないことには執着せず、仕事の能率・効率アップや体調を整えるなど、自分で変えていけるものに注力して頑張ることを意識しています。

Q.仕事で苦勞したことはありますか？

A. 行政が行う仕事は、法律や条例など、根拠となるルールをきちんと把握したうえで公平公正な対応をする必要があるため、複雑な法律等を勉強するのは大変でした。

Q.同期のつながりはありますか？

A. あります。コロナ禍ということもあり、大人数での集まりはありませんが、研修等で集まることもあり同期の繋がりはできました。今後、新型コロナウイルス感染症の感染防止策が緩和された際に、同期みんなで集まれたらいいなと思っています。

Q.同じ課の方とは仕事以外の関わりもありますか？

A. コロナ禍以前は、歓送迎会なども行っていました。また、業務以外の時間で、プライベートな相談に乗ってもらう事もあります。

Q. 残業は多いですか？また、休日の出勤はありますか？

A. (職員A)

配属部署や時期によって大きく異なります。私の経験では、新しい事業が始まって忙しかった年は平均で月40～50時間残業していました。一方その翌年は事業も落ち着き、残業時間は月10時間程度に減りました。

A. (職員B)

イベントや催し物があると、休日の出勤はあります。また、普段の仕事以外にも災害発生時の対応や選挙事務は平日休日に関係なくあります。

Q. 休暇はどのくらい取れますか？ また、育児休業は取りやすいですか？

A. (職員A)

繁忙期等で、一部取得しづらい時期はありますが、自分自身の業務の処理具合やスケジュール管理を行えば取りやすい環境にあると思います。

A. (職員B)

去年は年間20日のうち、時間休も合わせて合計10日程度取得しました。旅行や子供の行事に加えて、急なお迎えで1～2時間早退できるのは便利でした。またそれに加えて夏季休暇を5日、子供が体調を崩した時に子の看護休暇も利用しました。

A. (職員C)

男性職員も育児休業を取りやすい環境です。実際に、同課の先輩職員が3か月ほどの育児休業を取得していました。

Q. 人事異動は何年くらいで行われますか？

A. 職員によって様々ですが、最初の配属から数年で変わる人が多いと思います。私自身の場合は、今まで2つ課を経験しましたが、どちらも3～4年くらいで異動しています。

Q. 働く前と後で感じたギャップはありましたか？

A. 入庁前はずっと自席でパソコンと向かい合っているイメージでしたが、入庁後は直接現場に行く外の仕事も多く、その日の出来事や流れによって臨機応変な対応が求められることにギャップを感じました。

Q. 研修はありますか？

A. 入庁後の新規採用職員研修（２回）、２年目研修などの階層別の研修や、スキルアップを目的とした研修もたくさんあります。

Q. 社会人になるうえで不安はありましたか？

A. 最初は仕事も分からず不安になることもあります。課内の人に助けてもらえるので、安心して仕事ができると思います。市役所は窓口業務や電話対応がどうしても多くなるため、人と話すことには慣れておいた方がいいと思います。

Q. 事務職でも特殊なスキルや資格を活かすことができますか？

A. 地方自治体が担う業務の幅は非常に広いので、強みを活かせる場はあると思います。私自身は自動車運転免許しかありませんでしたが、ＩＣＴに強い人、様々な資格を持っている人はいます。ただ、業務に必要な資格は、入庁後に取得できるので、今の時点で必ず必要というものはありません。

Q. 職員になるにあたって必要な資質はありますか？

A. （職員Ａ）

行政文書にはわかりづらい表現も多いので、曖昧な質問から相手の意図を読み取り、適切に案内するためにもコミュニケーション能力は必要になると思います。

A. （職員Ｂ）

窓口や電話対応で間違った案内をしないために、相手から情報を正確に聞き取ることや、自分が伝えたいことを正確に伝える能力が必要だと思います。

A. （職員Ｃ）

どんな仕事も一人で完結するものではないので、協調性をしっかり持ち、上司や同僚と協力する姿勢や相談できる環境を整えておくことで、自分自身の働きやすさにもつながると思います。

Q. 必要な知識や資格はありますか？

A. （職員Ａ・事務職）

仕事をし始めた頃は、業務を覚えたり専門知識を身に付けるための勉強だったたり大変に感じることもありましたが、業務を行っていくうちに効率的な

進め方や知識が身に付いていくので問題ありません。困ったときは同僚や上司の方にアドバイスをもらえますし、研修等で勉強できる機会もあります。また、同様の業務を行ってきた先輩方のマニュアル等もありますので、それを参考にしながら業務を進めていくことができます。

A. (職員B・技術職)

日々の業務の中で、知識を習得できますし、先輩職員から指導を受けるので仕事を始めてから勉強をしても問題はありません。資格については必須ではありませんが、職場によっては施工管理技士の資格があるといい所属もあります。

A. (職員C・技術職)

採用試験で専門試験がありますので、ある程度の基礎知識は必要ですが、日々の業務の中で、わからないことはその都度調べたり、先輩職員が教えてくれたりするので、膨大な知識がなくても業務には支障ありません。

Q. 専門が工学系ですが事務職に興味があります。事務職の配属先がかなりたくさんあって不安です。

A. 事務職は様々な職場に配属される可能性があるのですが、その不安は理解できます。事務職として基本的な軸はありますが、部署が変われば業務内容も全く違うので、ある意味転職したようなことも起こります。一方で、様々な仕事を経験できるという面白さがあるのも市役所のいいところだと思うので、挑戦する気持ちを大事にしてほしいと思います。また、建設部などは技師が多いですが、そこに事務職として配属された場合、工学系の知識があるのは強みになると思います。

Q. 周りの方が大卒ばかりで不安です。高卒や短大卒の職員はいますか？

A. 高卒や短大卒の職員も多くいます。採用試験に合格するということは、津市役所の職員として資質があるということです。学歴は関係ないと思います。入庁したら、津市職員としてのスタートラインは同じなので心配いりません。入庁後、自身がどうするかが大切だと思います。